

**令和6年度
かごしま青少年海外研修事業報告書**

項目	頁
1. 事業概要	
事業概要	2
2. 研修内容	
(1) 事前研修	3
(2) 本研修 台北コース	4
香港コース	8
(3) 事後研修	12
(4) 報告会	12
(5) 懇談会	13
3. 研修成果	
台北コース	14
香港コース	15
4. 所属企業等からの意見	
台北コース	16
香港コース	17
5. 講評・総評	
講評 台北コース 川原団長、香港コース 有村団長	18
総評 日本ガス株式会社 代表取締役社長/学校法人 津曲学園理事長 津曲 貞利 氏	18

1. 事業概要

○ 事業の目的

アジア経済圏の主要都市である香港、台北の企業視察や研修先の若い企業人等との交流を通して、国際的な視野を持ったリーダーの育成を図る。

○ 事業内容

(1) 派遣先

香港, 台北

(2) 参加資格

- ・ 鹿児島県内に居住、又は鹿児島県に所在する企業等に勤務する者等（学生を含む）
- ・ 定められたテーマに基づく作文の提出があった者
- ・ 研修で得られた知識や経験を、その後の生活又は仕事に活かす意欲を有し、帰国後に研修成果を発表できる者
- ・ 事業終了後も、研修参加者や研修先等とのネットワークの維持に努めるとともに、必要に応じて、次年度以降の研修参加者へのアドバイスを行うなど、本事業の取組に協力できる者

(3) 参加費

5万円

(4) 参加者募集期間

令和6年8月6日 (火) ～ 9月5日 (木)

(5) 参加者

台北 コース	団長 1名	株式会社 ビッグファイブ 代表取締役 川原 健司 氏	
	団員 10名	社会人 8名	学生 2名
香港 コース	団長 1名	昭和製菓 株式会社 代表取締役 有村 雅憲 氏	
	団員 10名	社会人 9名	学生 1名

2. 研修内容

(1) 事前研修

《事前研修の目的》

- ・ 研修に参加するにあたり、事前に各地域の基本的な情報を習得する。
- ・ 本研修に向け、参加者の目的意識の向上を図る。
- ・ 派遣に伴う留意事項等の事前説明を行う。
- ・ 参加者間の親交を深める。

《台北コース》

- 日時
令和6年10月5日(土) 13:00 ~ 17:30
- 場所
サンプラザ天文館 3階 D-2 会議室
- 内容
 - ①オリエンテーション
(自己紹介、本研修・報告会までのスケジュール確認、本事業の目的理解等)
 - ②台湾・台北 基本情報
(時差・気候等の基本情報、政治体制、経済、対外関係、日本との関係、鹿児島県との関係)
 - ③アドバイザー(前年度研修参加者)による本研修の心得
アドバイザー：日本ガス株式会社 古川 直樹 氏、鹿児島県立短期大学 吉谷 すみれ 氏
 - ④研修行動計画表を基にしたグループワーク
(アイスブレイク 類人猿分類、リーダーの選任、グループ研修時の視察先企業・業種の選定等)
 - ⑤渡航手続きに関する説明
(台湾渡航時の注意事項、パスポートに関する注意事項、海外旅行傷害保険の案内等)

《香港コース》

- 日時
令和6年10月19日(土) 13:00 ~ 17:30
- 場所
サンプラザ天文館 3階 D-2 会議室
- 内容
 - ①オリエンテーション
(自己紹介、本研修・報告会までのスケジュール確認、本事業の目的理解等)
 - ②香港 基本情報
(時差・気候等の基本情報、政治体制、経済、対外関係、日本との関係、鹿児島県との関係)
 - ③アドバイザー(前年度研修参加者)による本研修の心得
アドバイザー：セイカ食品株式会社 大野 直子 氏、城山観光株式会社 後藤 虹花 氏
 - ④研修行動計画表を基にしたグループワーク
(アイスブレイク 類人猿分類、リーダーの選任、グループ研修時の視察先企業・業種の選定等)
 - ⑤渡航手続きに関する説明
(香港渡航時の注意事項、パスポートに関する注意事項、海外旅行傷害保険の案内等)

(2) 本研修（現地派遣）

《台北コース》

○ 日時

令和6年11月19日(火) ～ 11月22日(金)

○ 日程

日付	研修内容
11月19日 (火)	移動 鹿児島空港 - 桃園国際空港(台北) (チャイナエアライン) 現地若手企業人との意見交換会 - ①
11月20日 (水)	個別研修（企業視察等） - ② 班ごとに現地企業等を午前・午後で1企業ずつ訪問する。 A班：リージェント・タイペイ・ホテル（晶華酒店）、みずほ銀行台北支店 B班：郭元益（食品メーカー）、微風超市（スーパーマーケット）
11月21日 (木)	個人研修（企業視察等） - ③ 参加者が各自で研修先を選定し、自由行動で実施する。
11月22日 (金)	移動 桃園国際空港(台北) - 福岡空港 (チャイナエアライン) 博多駅 - 鹿児島中央駅（新幹線）

○ 内容

①意見交換会

現地若手企業人等との意見交換会を通じて、同世代の海外企業人の考え方や文化の違いを知り、参加者の視野を広げる。

《現地参加者所属業種》

方和傳媒股份有限公司、傳播媒體 執行總監、鹿児島銀行 台北駐在員事務所、
日商松田産業股份有限公司 台灣分公司、石峰印刷品有限公司 等

②個別研修（企業視察等）

参加者が2班に分かれ、班ごとに企業2社ずつを訪問し、企業の事業紹介や施設見学、意見交換等を行った。

【企業視察先及び参加者の主な感想】

《リージェント・タイペイ・ホテル（晶華酒店）》

台湾台北市中山北路にある5つ星ホテル。館内に8箇所のレストランがあり、世界各国の著名人が宿泊するホテル。落ち着いた色調のモダンなインテリアと心地よい静寂に包まれた空間が人気。サービスのクオリティも高く、台湾の方、海外の方にも人気のホテル。

- ・台湾(海外)で働くためには、「自分にしかできないこと=武器を作ること」が必要。その為には、自己投資、自己研鑽を行う。
- ・台湾は完全成果主義であることから、年齢の差に左右されず、努力次第で昇進できることが、日本・鹿児島と違うと感じた。

《みずほ銀行台北支店》

みずほフィナンシャルグループみずほ銀行は邦銀で唯一台湾国内に3拠点（台北・台中・高雄）展開している。預金業務や融資業務に加え日系企業の台湾進出の補助業務を行っている。台北支店では日本からの行員に加え、現地で採用している職員もいる。

- ・賃金が物価上昇を上回る伸び率で推移している台湾経済の現状を知ることができた。
- ・台湾企業の特徴について、事業の多角化により社内での決裁は早い、長期経営計画等の作成が苦手な企業・事業者が多いということがわかった。
- ・台湾企業にとっての輸出先は中国・香港が主な貿易相手であり、その中でも『半導体産業』は成長基調であることを知ることができた。

《郭元益（食品メーカー）》

中華菓子へ西洋スタイルを取り入れ、台湾各地に直営店やチェーン店をオープンし拡大していった。「郭元益糕餅博物館」もオープンし、食べるだけでなく作る楽しみも体験できる施設を持つ。

- ・企業風土である良き伝統を事業の柱として継続しながら、新しい要素を取り入れることで、企業価値を高めることができています。
- ・鹿児島にも各名産品を製造している各企業にて工場見学等できる場所はあるが、それらの名産品をジャンル問わず一度に学習・製造体験・購入ができる場所がないため、一度に体験できる場所があると、県産品PRに繋がるのではないかと思います。

《微風超市（スーパーマーケット）》

富裕層向けの台湾初の輸入食品類を取り扱うスーパーマーケット。鹿児島県産の食品や焼酎なども販売しており、台湾の厳しい規制をクリアした日本や欧米からの輸入食品を販売している。

- ・日本産の食品は台湾産と比較すると高額だが、ブランド力があるため人気である。
- ・台湾では食品に対する規制が厳しく、何でも輸入できるものではない。
- ・日本政府が台湾への輸出を強化していく中で、台湾の方・需要に合わせたローカライズの必要性を感じる一方で、農業県でもある鹿児島県は非常にチャンスであるとも感じた。

③個人研修（企業視察等）

参加者が各自で研修先を選定し、自由行動で実施した。

【主な視察先及び研修成果等】

《新北市板橋区大観国民小学、台北市立中山国民中学》

目的：教育程度の高い台湾の授業の質や教員の教育に対する考え方に触れ、学力低下社会と言われる日本や鹿児島の教育の課題や、グローバルな人材育成のために必要な英語科教育について考える。

主な内容

- ・英語の授業を参観
- ・生徒児童に英語の学習に対する意欲についてのアンケート（塾に通っているか、授業は楽しいか）
- ・教員を目指す大学生への質問・意見交換（最近の教育問題、グローバルな人材育成のために必要な英語科教育について等）
- ・生徒児童へ鹿児島県南さつま市について英語で紹介

研修成果

鹿児島と台湾の教員へのアンケートにて、最も回答に差があったのが『教育に「禁止」や「強制」は必要か』という点であった。鹿児島の教員は、生徒の権利を尊重することを重視していたが、台湾の教員は、教員が指示した課題や行動を行わない生徒児童への叱責等は必要であるが、学業成果に関連しないと思われることは強制や禁止はせず、『生徒の権利を尊重する＝教員が叱責しない・できない』ではないという考えを持っていた。日本・鹿児島と異なる点を見つけることができた。

《JETRO台湾（日本台湾交流協会台北事務所 経済部主任 江田氏）、NXTW（台湾日通）》

目的：九州・鹿児島（日本）と台湾の関係と、それを支える運輸について幅広い知識を獲得し、今後の業務へ活かす。

主な内容

JETRO台湾（日本台湾交流協会台北事務所 経済部主任 江田氏）

- ・日本とは異なる台湾概況の政治や経済

NXTW（台湾日通）

- ・台湾最大の空港 桃園空港がある桃園市の倉庫 2箇所を視察
桃園NEXT2（22,000㎡） 4階建て
※食品、酒類、アパレル、自動車部品など保税貨物の保管、配送、流通加工が可能な倉庫
桃園NEXT3（7,800㎡） 4階建て
※医薬品、健康食品、生活用品などを保管し、医薬品倉庫の役割を持つ。

研修成果

輸出入の面において、日本と台湾のつながりの強さを知ることができ、台湾は日本だけでなく、九州・鹿児島にとっても重要なパートナーであると感じた。また、輸出入を行う上で重要な入出庫管理、発送作業だけではなく返品作業や流通加工、通関業務の役割を実際に見ることができた。

《台湾三井物産股份有限公司 邵 斯鉉氏、利谷氏、黃氏》

目的：台湾のエネルギー政策について知る

1952年に台湾に事務所を解説し、三井物産株式会社が100%出資する台湾現地法人として台北本店に加えて新竹、高雄に事務所を有し、事業領域は金属、化学品、エネルギー、機械、インフラ、食料、生活産業サービス等多岐に亘り、輸出入、国内、三国間取引を手掛けている。

主な意見交換内容：TSMCの日本進出について

台湾域内に生産拠点を新設し雇用創出をすることで台湾の経済成長を後押したいが、脱原発に起因する電力不足や干ばつによる水不足等、台湾域内におけるリソースの限界から他国へ生産拠点をシフトせざるを得ない背景がある。

研修成果

企業の経済活動は、国と国の事情が絡み合って展開されていると現地関係者の声くことができた。
⇒なぜ「今」、なぜ「日本」、なぜ「熊本」なのかなど情報(海外時事等)を深掘りして、関心の幅を広げていくことが重要である。

《台湾での車事情について街頭調査》

目的：台湾の車事情について、価格や購入時のポイントなど日本との違いを街頭調査を通じて発見する。

主な質問内容

- ① 你有自己的車嗎？（自分の車を持っていますか？）
- ② 你平常的交通工具是什么？（普段の移動手段は何ですか？）
- ③ 你买车时最看重什么？（車を買うときに重視するところは何ですか？）

研修成果

- ①の回答：持っている 4名、持っていない 7名
- ②の回答：MRT(地下鉄等) 6名、車 4名、バイク 4名
- ③の回答：価格 2名、車両のサイズ 2名、デザイン 1名、燃費 1名、メーカー 5名、車内の環境 1名

多くの人がバイクやMRTを利用しており、都市部の生活では車が必要ないと思う人が多い点は日本の都市部での生活スタイルと共通している。また、家族ができれば購入を検討する場合もあることでも共通していた。日本と異なり軽自動車走っておらず、安全基準や自動車税の優遇制度の有無等が影響しているのではないかと考える。

《香港コース》

- 日時
令和6年12月3日(火) ～ 12月6日(金)
- 日程

日付	研修内容
12月3日 (火)	移動 鹿児島中央駅 - 博多駅（新幹線） 福岡空港 - 香港国際空港（香港エクスプレス） 現地若手企業人との意見交換会 - ①
12月4日 (水)	個別研修（企業視察等） - ② 班ごとに現地企業等を午前・午後で1企業ずつ訪問する。 A班：なだ万、全日本空輸（ANA） B班：香港厨、USHIO
12月5日 (木)	個人研修（企業視察等） - ③ 参加者が各自で研修先を選定し、自由行動で実施する。
12月6日 (金)	移動 香港国際空港（台北） - 福岡空港（香港エクスプレス） 博多駅 - 鹿児島中央駅（新幹線）

- 内容
 - ①意見交換会
現地若手企業人等との意見交換会を通じて、同世代の海外企業人の考え方や文化の違いを知り、参加者の視野を広げる。

《現地参加者所属業種》

香港鹿児島県人会、在香港日本国総領事館副領事、鹿児島県香港事務所、第一電機株式会社、香港不動産株式会社、Time Rise Engineering Ltd.、東洋旅行社有限公司、HIS香港支店

②個別研修（企業視察等）

参加者が2班に分かれ、班ごとに企業2社ずつを訪問し、企業の事業紹介や施設見学、意見交換等を行った。

【企業視察先及び参加者の主な感想】

《株式会社なだ万》

日本料理レストランを、日本国内のみならず海外にも4店舗を出店。令和6年11月には塩田知事が訪問し、理長などに対しトップセールスを実施。また、令和6年11月1日から鹿児島和牛やぶり、さつまいも、黒酢、焼酎など本県産品をふんだんに使用した「鹿児島フェア」を開催。

- ・ 知事も訪問され、鹿児島フェアを開催していただいたことから、香港市場での県産品認知度向上と輸出拡大が期待されるため、どのように県産品のPRをしていくことが重要か知ることができた。
- ・ 宿泊者以外にも人気のレストランであるため、多くの方に鹿児島県産の良さを知ってほしい。

《全日本空輸株式会社》

1971年に初めて香港への国際チャーター便の運航を行い、その後国際線定期便の運航路線を拡大し、2023年の利用旅客数は国際・国内線共に国内第1位の航空会社。日本から香港、香港から日本、相互の旅客及び物流を支える企業の一つ。

- ・ 日本⇄香港間の旅行者数の推移と現状を知ることができた。円安の影響もあり香港からの訪日者数は成長を続けているが、香港を訪れる日本人は2019年以降回復していない為、政治的イメージの改善が必要だと感じた。
- ・ 香港の方にとって、自分たちが当たり前と考えている音楽やアニメなどの新しい日本文化は渡航するきっかけの一つにもなっていることを知ることができた。

《香港厨有限公司》

九州の食材、代表者 水口 敬介氏の故郷長島の食材を世界に広めたいという思いで設立。鹿児島、熊本、宮崎、福岡の市場から香港、中国向けに空輸で新鮮な鮮魚運び、長島で養殖されたブリ、カンパチ等の魚を冷凍フィレにして販売しており、日系レストランや香港現地の卸売り業者、百貨店等でも販売している。

- ・ 外国人にとって、香港での起業は難しくないが短期間で制度や情勢が変わるため、常にアンテナを張っている必要があることは日本と異なる点と感じた。
- ・ 働き方の違いを伺うことができ、香港の方はロジカルな思考を持っている方が多く、合理的な働き方を求め年齢が上の方や上司にもハッキリと意見を言うことが、日本・鹿児島と違うと感じた。

《焼肉赤身 USHIO》

福岡(博多)に本店を置く日本スタイルの焼き肉レストランで、鹿児島の新村畜産より直送された鹿児島県産和牛を取り扱っている。香港の方や香港在住日本人のみではなく、様々な国の方が利用されており、鹿児島が誇る『鹿児島黒牛』を認知していただく機会創出に貢献されている。

- ・ 日本の店舗と同じ牛肉を使用しており、信頼度も高いレストランであるため、日本の食品に対する安心感、信頼度の高さを知ることができた。
- ・ 日本食は人気だが、円安の影響もあり日本へ渡航し直接食べに行こうと考えている人も多いことが意外であった。

③個人研修（企業視察等）

参加者が各自で研修先を選定し、自由行動で実施した。

【主な視察先及び研修成果等】

《香港ヤクルト株式会社、現地スーパーマーケット》

目的：現地の食品製造業及び日本製の菓子の価格や販売量等を調査する

主な内容

- ・香港ヤクルト株式会社の工場見学
- ・日系のスーパーマーケットと現地のスーパーマーケットにて日本製菓子が陳列されている状況や価格調査。
 - ※日系スーパーマーケット：イオン、ドン・キホーテ
 - ※現地スーパーマーケット：ウェルカム、パークンショップ、ケイワーベーカーリー

研修成果

香港ヤクルトの工場見学においては、日本で販売されているものよりも内容量が多いなどの違いに気づくことができた他、機械化が進み来場者も楽しむことができる『見せる工場』になっていた。また、スーパーマーケットでは日本製の菓子が陳列され、価格は日本よりも高いものの、香港で製造されている菓子でありながらも日本語表記されているものがあるなど『日本のもの＝安心・安全』であると認知されていることを知ることができた。

《繁華街等のSDGsへの取り組み、香港家族計画指導会での支援の取り組み》

目的：SDGs先進国と言われる香港におけるSDGsの取り組み、香港家族計画指導会の取り組みを知る

主な内容

- ・繁華街などのあらゆる人々が利用する場所でのSDGsへの取り組みの調査
 - ・香港家族計画指導会の支援の取り組みを調査
- ※『香港家族計画指導会』とは、香港の人々を対象に、性と健康に関する情報、教育、医療、カウンセリングサービスを提唱、促進、提供することを目的としたボランティア組織。

研修成果

《SDGsへの取り組み》

- ・繁華街に多くのゴミ箱が設置されており、通行する人の数と比較してもゴミの数が少なかった。また、香港では喫煙への規制がとて厳しいため、指定の場所以外で喫煙している人がいないことが印象に残った。清潔な街だと感じたが、街中のスロープや手すり、点字ブロックなどの設置が非常に少なく、それらを必要とする人たちは生活しづらいのではないかと思った。

《香港家族計画指導会の支援の取り組み》

- ・女性の不妊治療など、妊娠・出産についてのサービスが充実している。
⇒日本と比較して女性への支援が充実していると感じる一方、男性向けの支援が少ない。

《M+ (現代アート美術館)、DJI フラグシップストア及び深圳の街中》

目的：香港・深圳の最先端のデザイン、技術を見て学ぶ。

主な内容

- ・アジア最大級の現代アート美術館『M+』の視察
- ・深圳に本社をおくドローンの製造、販売を行う『DJI』の旗艦ショップストアの視察及び『中国のシリコンバレー』と呼ばれる深圳の街中の視察

研修成果

M+ は現代広告デザインに応用できそうな作品が多数展示されており、今後の業務に活かすことができる学びを得ることができた。また、日本のグラフィックデザイナーや建築家に関する展示もあり、地域を超えた文化の繋がりを実感した。さらに、子ども向けの体験型ブースが印象的でアートの新たな在り方を考える貴重な機会になった。深圳のDJI フラグシップストアでは最先端のドローンが展示・販売されており、広告の為に映像制作に利用される以外にも人口減少や高齢化などから派生する物流問題の解決などに役立つツールでもあったと感じた。

《噴射飛行 (TurboJet) の整備場や九龍半島⇔香港島を結ぶフェリーの乗船》

目的：鹿児島県と同様に海上交通が発達している香港での高速船の整備環境や、交通手段である九龍半島と香港島を結ぶフェリーの実情を知る

主な内容

- ・ドック入りしている高速船やエンジン整備場の視察
- ・九龍半島と香港島を結ぶフェリーへ実際に乗船

研修成果

実際の整備現場にて、導入している設備や機械類を視察することができ、土地が狭いが故に、防護シートで作業場を囲い周辺環境への騒音防止等の配慮がなされているなど、自身の勤務してる会社との違いを見ることができた。また、機械化が進んでいることから作業員は小人数で業務を行い、整備を行っている現場を見ることができた。鹿児島県は離島もあり、海に囲まれているため船舶の担う役割は大きい。県内の造船業界は高齢化と人手不足が課題であるため、香港の整備場にて目の当たりにした機械化が重要であると感じた。研修で学んだことを活かし、自社にて造船業界の仕事や役割の周知に取り組みたいと思った。また、海外からも整備修繕の依頼をいただくこともあるため、海外へも新規顧客開拓が必要である。その為にも、今回の研修を通じて体感した、コミュニケーション能力の向上と物事や良い点、自分の意見などはっきり相手に伝えないと伝わらない点を改善していきたい。

(3) 事後研修

《台北コース、香港コース合同》

目的

- ・ 研修結果を振り返り、修成果を共有することにより、参加者の視野を広げるとともに、研修成果を今後の生活や仕事に活かしていく意欲を喚起する。
- ・ 研修終了後の参加者間のネットワーク形成を促す。

○ 日時

令和6年12月21日(土) 13:00 ~ 17:10

○ 場所

サンブラザ天文館 3階 D-3 会議室

○ 内容

①オリエンテーション

(自己紹介 ※各自2分以内に本研修で学んだことを簡単に発表)

②アドバイザー(前年度研修参加者)による報告会にむけた準備についてのお話

アドバイザー：日本ガス株式会社 古川 直樹 氏、セイカ食品株式会社 大野 直子 氏
城山観光株式会社 後藤 虹花 氏

③グループワーク（報告会に向けた準備・作業）

⑤今後のスケジュール等の案内

(各データの提出期限、報告会のスケジュール等)

(4) 報告会

《台北コース、香港コース合同》

目的

- ・ 研修成果を共有することにより、参加者の視野を広げるとともに、研修成果を今後の自身の生活や仕事に活かしていく意欲を喚起する。
- ・ 派遣元の企業や大学等へ研修成果を報告する機会とする。
- ・ 企業や県民に研修の実績や効果をPRする機会とし、年度以降の派遣企業や参加者の確保につなげる。

○ 日時

令和7年2月1日(土) 13:00 ~ 16:30

○ 場所

サンブラザ天文館 7階 ホール

○ 内容

①成果報告（台北コース）

・ テーマ

研修で学んだことを生かして、今後の鹿児島での仕事・学生生活で体現したいことや
鹿児島のために取り組みたいこと

・ 形式

各コース内のグループごとに、グループ報告 ⇒ 質疑応答、個人研修報告 ⇒ 質疑応答

②講評

台北コース団長：川原 健司 氏

③成果報告（香港コース）

・テーマ

研修で学んだことを生かして、今後の鹿児島での仕事・学生生活で体現したいことや
鹿児島のために取り組みたいこと

・形式

各コース内のグループごとに、グループ報告 ⇒ 質疑応答、個人研修報告 ⇒ 質疑応答

④講評

香港コース団長：有村 雅憲 氏

⑤総評

日本ガス株式会社 代表取締役社長/学校法人 津曲学園理事長
津曲 貞利 氏

(5) 懇談会

《台北コース、香港コース合同》

○ 日時

令和7年2月1日(土) 17:00 ~ 19:00

○ 場所

サンブラザ天文館 7階 ホール

○ 参加者

25名

(内訳)

- ・今年度参加者 19名
- ・今年度の研修生の所属企業・大学関係者 5名
- ・過去の参加者 1名

○ 内容

参加者間のネットワーク構築を目的とした交流

3. 研修成果

《台北コース》

- ・ 今回の研修を通して、国内とは異なる海外の人々の生活、企業活動を見ることができ、本当にいろいろな発見に出会い、もっと海外を見てみたいと感じた。この経験を、この気づきを他の同僚にも共有する。また、今後はアドバイザーとなり、弊社の海外研修事業をより盛り上げていきたい。
- ・ 今回の研修で普段と異なる文化に触れることで自分自身の知見が広がったり、現地企業の方々と意見交換をするなかで得たりした知識を、現在従事している営業部門だけでなく他部署の業務の新たなアイデアの創出、業務効率化のための推進等で還元していきたい。
- ・ 新たな挑戦をまずはやってみるという気持ちで取組み、トライ＆エラーを繰り返しながらより良い環境、結果を求めていきたいと感じた。本研修で得た新たな人脈からビジネスネットワークの拡大、ビジネス機会の創出をしていきたい。
- ・ 「多角的な視野を持つ」を課題とし、台湾の現地人含め異業種の方々と積極的に意見交換を行うことで人づてにしか知りえない情報や様々な視点・考え方を得ることができた。本研修へ一緒に参加した年齢・業種の異なる鹿児島企業の企業人や学生と新たな繋がりを持つことができた。班ごとの個別研修の準備や振り返り等のグループワークで鋭い新鮮な意見をもらうことが多く大変勉強になった。
- ・ 本研修を通じて、多くの貴重な経験を得ることができた。特に印象的だったのは、現地の若手企業人との意見交換や個人研修での調査活動である。若手企業人との交流では、日本と台湾の文化や生活習慣の違いについて深く知る機会があり、言語や文化の壁を越えてコミュニケーションを取る難しさと楽しさを体感した。また、現地の方々の日本語能力の高さにも驚き、互いの文化に対する理解を深めることの重要性を再認識した。研修で得た知見を糧に、社会に貢献できる製品開発に取り組んでいきたい。
- ・ 意見交換会や企業視察等で文化や経済、社会の多様な側面に触れることができ、非常に有意義な経験となった。今後のビジネスにおいては、台湾を含む海外市場の動向を理解し、多様なニーズに応える力を磨いていきたいと思う。
- ・ 今回の研修で身に付いた多角的な視点や積極性、行動力や逆境への強さを就職活動の強みとしたい。異文化の地の教育を知ることで日本や鹿児島の教育の改善すべき点や優れた点が見え、研修に参加する前よりさらに強く「教員になりたい」「教育に携わりたい」と感じるようになった。
- ・ 街中を歩けば日本のコンビニや飲食店、日本の食品や製品を目にすることが多く、私が思っていた以上に日本と台湾の両国の距離は近いのだと感じた。台湾でのリース利用状況や機種別のリース利用状況を把握することが出来た。
- ・ 今後の展望として、現在行っている国内輸送の知識を身に着けるとともに、国際輸送の知識も身に着けることができるよう、学びに努めたい。また、国際業務を行う上で、英語などの語学力が重要になってくるため、語学学習にも努めたい。
- ・ 今回の研修は、県内の様々な企業から研修生が参加しており、普段なかなか触れ合うことのない方々と交流ができる貴重な機会であったため、積極的にコミュニケーションを取るように努めた。普段の業務内容や、仕事のやりがい、大変さなど聞くことができ、客観的に自身の仕事や職場環境等を見つめ直す良い機会になった。今回は台湾について学んだが、これを機にアジア各国にも目を向け、国によって企業経営する上でどのような難しさや違いがあるのか学んでいきたい。

3. 研修成果

《香港コース》

- ・香港での経験を基に、福祉政策の改善や新しい政策の提案に結びつけたいと考える。経験を基にした提言や考えは影響力が大きいと考えるので、職場での福祉支援の向上に貢献したいと考える。
- ・今回の研修を通じて、国際的な視野を持つことができた。研修で得た知識や経験をもとに、これからも焼酎の魅力、鹿児島素晴らしさを世界に伝えていくための活動を積極的に行っていきたいと思う。
- ・地元企業人の方々との意見交換会や二日目の香港厨での座談会などは、香港の様々な事情や知識を知ることができた良い機会となった。キャッシュレス化や業務の自動化など人数を少なく仕事が多く進むような改革が進んでいるが、日本ではそのような面は遅れている。仕事への意識が高まる一因となった。
- ・異業種のチームの皆さんと交流できたことで鹿児島の現状を多方面からより一層把握することが出来た。鹿児島でしかできない体験や観光地のアピールがもっと必要だと感じた。鹿児島をもっと盛り上げたいと感じている方がたくさんいることを肌身で感じることができ、自身のモチベーションがさらに向上し、外の世界を知ることの重要性をまずは自身の実の回りの人へ還元したい。
- ・アジア人だけでなく欧米人も多い香港で得られた知見を他地域での営業活動にも応用して活かしていきたいと思う。今回得られた知見を活用し、まさに「香港人のロジカルな思考」をもって広い視野で今後の業務に励んでいきたい。
- ・日本にある商品がそのまま香港でも販売されている点や、香港製造の菓子が日本人にも受け入れられている点から、香港人と日本人の嗜好は似ており、日本に近いやり方で商品開発ができると考える。また、商品開発にのみ取組むのではなく、弊社営業部にも本研修の情報を共有して、香港への輸出を増やしていきたい。
- ・香港では親日的な文化に触れる一方で、観光客の減少要因やその背景にある情報発信の課題について考えるきっかけを得た。キャッシュレス社会の浸透や都市の効率的な管理体制を直に体験することで、日本の状況との違いを改めて実感し、課題と可能性の両方を見つめ直す貴重な機会となった。
- ・今回の研修を単なる学びに終わらせることなく、得た知見を活かした具体的なアクションを継続しながら、意識を高い状態に保ち続けることが重要だと考える。これにより、日本が直面する課題解決や業務の革新に寄与し、今回の研修の意義をさらに高めていきたいと思う。
- ・研修後にインバウンドのお客様の対応をする機会があり、積極的にコミュニケーションをとりありがたうとお礼を言われて笑顔で帰られる姿を見たときは、今回の研修を生かすことができたと実感した。今後も国際的な視野を大切に、自分の語学力の向上と挑戦を続けていき、他のスタッフにも共有を行い、会社として国際的な視野を持っていけるよう努める。
- ・今回の研修で、挑戦することの大切さを学んだ。仕事において難しい事があっても積極的にチャレンジして行きたいと感じた。弊社では実習生が実際に働いており、そこでも言葉のやりとりで躓く事もあり、言葉を覚える事の重要性を改めて深く実感した。
- ・香港で個人研修の際は、自分が思っていた価値観をすべて違っていた。香港は、正直治安があまりよくないと思っていたが、接する人すべての方が優しく気遣ってくださった。飲食店に入った際も、日本人だと伝えると日本語で対応してくれる方、英語で話してくださる方等接客での対応力も驚く場面があった。

4. 所属企業等からの意見

《台湾コース》

- ・ 本人なりに課題を設定し訪問先探しなどの準備を積極的に行っていました。初日の現地若手企業人の皆様との交流に始まり、二日目のグループ研修、三日目の個人研修にわたり、慣れないながらも日常では経験できないような貴重な体験が出来たと思います。
- ・ 本研修は短期間ですが、同業種の現地法人に訪問の約束を取り付け、詳細にヒアリングできたことはかなり有益であったと考えます。今後は、同行した方や現地で会った方たちとの縁を大切にして、以後の業務にあたって、さらなる活躍を期待したいと思います。
- ・ 今回の研修で人材交流や企業訪問、個人研修を通して多くの学びがあったと思いますが、学びや経験で終わらず、自身の行動変容につなげていくことが重要かと思います。今後のアクションに期待しています。
- ・ 今回は、国際的視野を広め、取引先に対するサービス向上や、地域経済発展に寄与することを目的とし本研修に参加させていただきました。今回の研修を経て得た知見は、本人の成長にとどまらず、弊社にとっても重要な財産となるものと考えており、今後は、今回得られた情報・経験を基に、取引先及び地域経済発展に具体的に貢献できるよう、全体としても取り組んでいく方針であります。
- ・ 今回の研修を通じ、他国文化に触れ、日頃とはまた違った環境の中で物事を見たり聞いたりすることにより、大変貴重な経験を得ることが出来たのではないのでしょうか。また、普段接点の少ない他業種から派遣された方々との交流も大いに刺激になるとともに、貴重な人的財産の構築が出来たことと思います。今回の研修での経験等を、仕事を含めた今後の社会生活に生かしてほしいと考えます。
- ・ 今回当課所属従業員がこのような研修に参加させていただく機会をいただきありがとうございました。本人は元々国際輸送を志望しており、現在は国内輸送業務に従事しておりますが、今後のステップアップのためには有意義な活動ができたのではないかと思います。今後の本人に当課も期待しております。
- ・ 報告では、今回の台北訪問が単なる観光旅行ではなく、企業訪問や当該企業社員との情報交換を伴うもので、その内容も台湾の表面的な経済状況のみならず、企業での勤務スタンスや、台湾の日常生活等幅広くかつ深いレベルに及んでいることが伺い知れた。今回の訪問で視野は、今までより広角になり、また守備範囲も広がったと推察される。今後は、お客様との会話や様々な局面で今回得た情報や知識が生かされ、営業マンとして、また社会人としても、更に厚みを増していくものと期待する。
- ・ 帰国後の具体的な行動変容が明確に示されており、研修の成果を実務に活かそうとする姿勢が伝わってきました。今後も国際的な視野と新しい知識を積極的に業務に活かし、部署内にも共有しながら今回の研修をより実のあるものにしてもらいたいと思います。更なる自己成長と、社業発展への貢献に期待します。
- ・ 初めての海外研修で期待と不安で心配しましたが、香港の都市、そこで活躍している人達と交流ができ素晴らしい宝物を持ち帰って来てくれました。お客様が満足して頂ける仕事とは何かの1歩を踏み出す事が出来今回の海外研修は本人の成長に繋がると期待しています。感謝申し上げます。

4. 所属企業等からの意見

《香港コース》

- ・ 今回の香港研修を通して焼酎の海外マーケットの現況について学び経験してきたことは、これからの焼酎業界全体をどう考えていくのか非常に大きな経験であり、財産になったと思います。今回感じたこと、思ったことは以降絶対忘れないようにして下さい。和酒の海外需要や認知について焼酎は日本酒に比べてかなり遅れているのが現状です。日本酒は世界的にも酒の種類のカテゴリ入りを果たしていますが焼酎は未達です。レポート内にあるように、焼酎の飲み方についてもこちらの飲み方を押し付けるのではなく、カクテルベースとして使用するなどまずは現地の飲み方に寄り添うことが大事であり、そこから本格焼酎というものがどういうお酒なのか深く知ってもらうことで本物のファンを獲得できるのではないかと思います。またディストリビューターについても非常に大きな問題で市場開拓には絶対欠かせません。市場開拓を進めるためにはまずはディストリビューターの獲得が優先で必須となります。今後はもっと海外市場も視野に入れ自社の製品を海外でも知ってもらい飲んでもらいたいと思っています。今後の活躍に期待しています。頑張ってください。
- ・ 私を含め彼に今後、期待するものは大きい所があります。社内会議や担当者との打ち合わせ会議で工事仕様書等の文章を読み上げる時は淀みなくハッキリ読んでくれます。しかしながら自身の考える事、思っている事を周囲に伝える事が苦手でありコミュニケーションの不足を感じております。研修レポートを読ませて貰いました。今回の研修目的や研修による本人自身の今後の課題を認識してくれている事は大変に心強く思います。これだけの文章を書け、まとめられている事は本人の未だ隠れている能力でもあります。今回の研修で自身が得た事又ご一緒した方から得た事も大事にし成長してくれる事を楽しみにしております。
- ・ 今回参加させていただいて、香港の経済含めた実情、またプロダクトに対するローカルのニーズ等、知見を深める事が出来たようです。これから海外担当者として、海外向け商品開発への積極的な参画や、今後の営業戦略に生かす事に期待したいです。
- ・ 今回の研修では明確な目的と課題を設定されていたので事前に日本の市場も調査するようアドバイスしました。日本と香港での人・文化・市場の違いを肌身で感じたことで海外市場に対する視点の変化や市場可能性に対する気づきがあったことを彼女の帰国後の話から伺い知ることができました。彼女自身の成長もそうですが、今後の働きによって会社が更に成長できる大変有意義な研修を受講されたと評価しています。このような機会を頂けたこと、誠に感謝いたします。
- ・ 今回の研修報告を拝見し、現地でのリアルな体験が多角的な学びに繋がったことを大いに評価します。特に深圳でのキャッシュレス社会や先進的なテクノロジー体験を通じて、日本の課題解決への具体的な行動を始めている点は素晴らしい成果です。QRコード決済の普及に向けた提案や、店舗単位での啓蒙活動への着手は、実務に直結する取り組みとして期待しています。グローバル視点を持ちながら現場改善に取り組む姿勢を、今後も積極的に活かしてほしいと思います。

5. 講評・総評

《川原団長》

皆さんの発表を聞いて、参加者それぞれが本研修へ目的持って参加していて、それに対して準備して参加し、現地ではしっかり見て、聞いて、考えて、それを自分の中に取り込んでいることがわかった。また、日本から台湾へ行き仕事をしている方々との交流や、研修にて企業を訪問し話を伺ったことで、台湾のビジネス環境やビジネスモデルを学んでいただいたこともわかった。

今後、今回の研修にて学んだ成果を反映することは、勤務先やプライベートでも可能であり、今の自分を知ることや自分の在り方の柱を揺るがないものにしていくことが、人生にとって有意義なものになるのではないかと思います。

《有村団長》

今回の研修を通じて、働き方などの文化・国民性による違い、香港と鹿児島の違いを知ることができた一方で、反対に共通点も知ることができたのではないかと。鹿児島で言われる言葉の一つに『ぎを言うな』という言葉がある。それは、『文句を言うな』『口ごたえするな』という意味で使われることもあるが、香港の方のように上司や先輩に対して、に物おしせずに文句ではなく意見を言うことは重要であり、必要なことではないかと思う。

また、研修では海外のトレンド、事情、海外で働いている鹿児島の方、日本人の挑戦に触れたことで国際的な差を知ることができたのではないかと。この差、違いを知る事が国際的な視野を得ることに繋がるため、今後皆さんはグローバルに物事を考えて、鹿児島のためにローカルに行動する二面性で活躍してほしい。

《津曲社長》

約20年前、本事業の1回目から携わっていて、当時は鹿児島県内において殆どの方がパスポートを持っていない時代であった。その頃に重要視されていたことが、『まずは海外の文化に触れること』。しかしながら、海外進出する起業も増え、日本を訪れる外国人の数も増えていく中で重要視されることは変わっていき、明確に目的意識を持つことが求められている。

今回研修に参加された方々の多くが、自社の商品等を外に出す『輸出事業者』であるかと思うが、外に出す際に重要なことは、まずは『自分の持つ商品にどれだけ力があるか』を知ることが重要である。その中で特に海外で勝負をしていく為には、『海外の人の生活の中でのシェア』『その商品に対して投資するシェア』『愛着を持てる、持ってもらえるシェア』がそれぞれどれだけあるのかを知る、そしてそれらについて探求していくことが必要である。

その一方で、鳥の目で俯瞰することも大切であるため、広い視野を持つことも養ってほしい。また、鹿児島を訪れる国内の観光客 28人、海外からの観光客 7人で鹿児島県民1人の経済効果があると言われている。海外から来られる方が、いかに大きな経済効果をもたらすかを知ることができるデータだが、海外から日本に来られる方は、様々なことを体験することが好きな傾向にある。鹿児島に来た人に対して何ができるかを考える視点も必要である。